

日中サービス支援型共同生活援助について

1. 日中サービス支援型共同生活援助の趣旨

日中サービス支援型共同生活援助は、障害者の重度化・高齢化に対応するために創設された共同生活援助の新たな類型。短期入所を併設し、地域で生活する障害者の緊急一時的な宿泊の場を提供することとしており、施設等からの地域移行の促進及び地域生活の継続等、地域生活支援の中核的な役割を担うことが期待される。

2. 日中サービス支援型共同生活援助の特徴

・常時の支援体制の確保

日中サービス支援型共同生活援助においては、共同生活住居ごとに、昼夜を通じて1人以上の世話人又は生活支援員を配置する。

・指定短期入所の併設

日中サービス支援型共同生活援助の入居定員のほか、地域で生活する障害者の緊急一時的な支援に応じるため、指定短期入所（空床型を除く）を行う。

なお、指定短期入所は、原則として当該日中サービス支援型共同生活援助と併設又は同一敷地内において行うものとする。

・地方公共団体が設置する協議会等への報告・評価

日中サービス支援型共同生活援助は、地域に開かれたサービスとすることにより、当該サービスの質の確保を図る観点から、地方公共団体が設置する協議会等（※）に対し、定期的に（年1回以上）事業の実施状況等を報告し、協議会等から評価を受けるとともに、当該協議会等から必要な要望、助言等を聴く機会を設けなければならない。

※法第 89 条の3第1項に規定する協議会又はその他の都道府県知事がこれに準ずるものとして特に認めるもの（都道府県又は市町村職員、障害福祉サービス事業所、医療関係者、相談支援事業所等が参加して障害者の地域生活等の検討を行う会議等）

3. 評価の方法

障がい者相談支援センター（基幹相談支援センター）に評価をお願いし、今年度評価対象となった3事業所の評価を行いましたので報告します。

報告・評価シート

【報告日 2023 年 12 月 21日】

【評価日 2024 年 1 月 17日】

事業所名 城南学園グループホーム事業所

法人概要	法人が運営する障害福祉サービス等事業（当該GH以外）	事業所名称、所在地、サービス種類 ・社会福祉法人 慶信会 ・熊本県熊本市南区城南町藤山1276番地2 ・施設入所、生活介護、短期入所、共同生活援助、相談支援、居宅介護、同行援護 行動援護、重度訪問介護、放課後等デイサービス、児童発達支援、就労継続支援B型 就労移行支援、自立訓練(生活訓練)
事業所 基本情報	各住居名称、所在地、定員	1. 城南学園グループホーム事業所（住所：熊本市南区城南町塚原717番地3） 定員 12人
	短期入所を実施する住居	住居名 グループホームじょうなん （1床） <u>併設型・単独型</u> 計 1床
	主たる対象者	身体障がい者・ <u>知的障がい者</u> ・精神障がい者・難病患者・特定なし
利用者について	利用者の障害支援区分	区分6：1人、区分5：5人、区分4：5人 区分3：1人、区分2： 人、区分1以下： 人
	利用者の年齢	60歳以上：4人、50歳代：8人、40歳代： 人、 30歳代：2人、10歳・20歳代： 人
	利用者の状況	利用者： 12人 住居内で日中を過ごす利用者： 0人 他の日中活動サービス利用者：12人

項目		評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
			具体的な内容	要望, 助言, 評価
	1	当該日中サービス支援型共同生活援助事業の指定申請に至った経緯、目的等	利用者の高齢化・重度化が進んでおり、今後日中活動サービス等の利用ができなくなる可能性が予測されるため、高齢による心身機能の低下や重度の障がいがあっても、地域での生活に生きがいを持って暮らしていただきたいという思いから申請に至った。	
	2	支援の基本方針	利用者が清潔で快適な環境で一人ひとりが主体的に安心して楽しく暮らせるように支援する。	
利用者の主な日中活動	3	日中の支援方法 (日中をGHで過ごす利用者に対してどのような支援を行うのか)	日中活動との差別化を図るため、生活に沿った内容の支援を重視している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングや散歩等の健康面の支援 ・掃除や洗濯等の日常生活スキルの支援 ・食事や入浴、排せつ等のADLの支援 	○日中支援について、どのような支援内容が中心か。 →通院への同行が多い。場合によっては通院後、買い物に行き支援を行っている。 ○余暇時間の支援方法についても今後検討することが望ましい。
	4	利用者の意向に合わせて適切な日中活動サービス等が利用できるよう、相談支援事業者や他の障害福祉サービス事業者との連携に努めているか	(主な日中活動サービス等の利用先) <ul style="list-style-type: none"> ・第二城南学園生活介護事業所 ・第二城南学園就労継続支援B型事業所 ・城南学園生活介護事業所じょうなんみなサポ ・支援センター銀河カレッジ ・デイサービスサンフラワー モニタリングや担当者会議等には積極的に参加し、他事業所との連絡に努めている。	○モニタリング以外で相談支援事業所等と連携することはあるか。 →利用者の特性や過去の行動から、特に注意が必要な方については通所事業所、相談支援事業所へ都度情報の共有を行っている。

項目		評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
			具体的な内容	要望, 助言, 評価
運地 営域 に 開 か れ た	5	地域との交流や実習生・ボランティアの受け入れを行っているか	(地域住民との交流の機会を確保する工夫等について、1つ以上記載してください) 地域住民数名と塚原公民館の花の苗植えを年に1～2回実施。実習生(大学生)受け入れは、見学や説明としての短時間で受け入れている。	○実習生がその後事業所に就職することはあるか。 →グループホームとしてはいないが、他の障がい福祉サービスを含めた法人全体としては複数名いる。 ○ボランティアの応募はどのように行っているか。 →事業所単位ではなく、法人にて行っている。
運 営 ・ 支 援 に つ い て	6	障がい福祉関連事業における経験がない従業者に対する対応	(外部または事業所内研修の受講計画(年間計画)や、資格取得への取り組みについて具体的に記載してください) ・法人内研修や施設協会及び県社協主催等の外部研修、強度行動障害支援者養成研修、法人内の委員会主催の研修へ参加。 ・支援マニュアル等の作成や、OJTでの研修。 ・事業所会議や日々の引継ぎで情報の共有を図る。	○支援マニュアルとは具体的にどういったものか教えて欲しい。 →画一的なものではなく、利用者それぞれに対し支援の際の注意点や緊急時の対応方法をまとめたもの。
	7	従業者の確保策(夜間も含めた人材の確保)・離職防止のための取り組み	・個人の働き方に寄り添った勤務体制作りを行っている。 ・ハラスメントに関する研修への参加、相談窓口を設置し、良い職場環境の維持に努める。	○近年の職員の入れ替わりはどのくらいか。 →入職者は数名いるが、退職者はいない。 ○職員の定着について特別に取り組んでいることはあるか。 →非常勤ではなく正規職員として雇用するため、職員全体の責任感やモチベーションが高い。
	8	利用者の重度化・高齢化に対応するための従業者の質の確保ための取り組み	・専門的な知識の習得に努める。(資格の取得や強度行動障害支援者養成研修等の研修への参加) ・事業所会議や日々の引継ぎで情報を共有し、意識の統一を図る。	○高齢となった方の介護移行の状況はどうか。 →65歳以上になる方については随時介護移行について検討している。ただ、介護移行に伴う費用負担が利用者にとって大きな課題である。

項目		評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
			具体的な内容	要望, 助言, 評価
運営・支援について	9	利用者の健康管理方法	日々の食事管理、1日2回の検温、月に1回の体重、血圧、脈拍測定、かかりつけ医への定期通院、服薬管理、定期受診、定期検診、日々の健康観察、健康状態の記録、健康管理に対する支援員間の情報共有を行う。また、職員は手指消毒やうがいを徹底し、マスク着用で支援を行っている。	<p>○常時医療的ケアが必要な方の受け入れは可能か。 →常勤看護師を配置しているが、複数名配置しているわけではなく、場合によって不在の時もあるため現状は不可。</p> <p>○栄養士が食事を作っており、グラム単位で食事量を調整されており、健康、体調管理が適宜なされていた。</p>
	10	モニタリングの実施方法 (他法人が運営する指定計画相談支援に依頼する等)	相談支援事業所に併せてモニタリングを実施している。	<p>○利用者の要望をどのように把握しているか。 →利用者が話しやすい職員が聞き取ったり、言いにくい場合は紙に書いて渡してもらう等している。</p> <p>○応えにくい要望はあるか。 →すべての要望に応えるのは難しいが、なるべく応える様にしている。また、対応できない場合は納得してもらえようししっかり理由を説明する。</p> <p>○職員と利用者が普段からよくコミュニケーションを取れており信頼関係が築けている。</p>
	11	その他運営の特色や工夫等	<p>(設備面での障がい特性等への配慮)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭的で落ち着ける環境。 ・トイレ等はわかりやすくピクトグラムを掲示。 ・極力段差を減らしている。 <p>(運営面での特色等)</p> <p>一人ひとりが穏やかに地域で暮らせるように寄り添った支援を心掛けている。</p>	

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
その他	12 災害等発生時の対応方法	災害対応マニュアルに応じて対応する。	○蓄電池はあるか。また、備蓄は何日分か。 →蓄電池は導入できていない。備蓄については3日分用意している。 ○避難訓練等どのように行っているか。 →毎月第一日曜日に、災害や火災を想定し、避難用の車に乗り込むまでを訓練している。
	13 感染症発生時の対応方法	・感染症対策委員会への報告・対応の検討 ・感染症対策マニュアルに応じて対応する。	○BCPやマニュアルが実践向きのものだった点がよかった。
	14 地域協議会からの要望, 助言への対応 (2回目以降)	(要望・助言の内容及びその対応)	

報告・評価シート

【報告日：2023 年 12 月 18 日】

【評価日：2024 年 1 月 17 日】

事業所名：ソーシャルインクルーホーム熊本小島

法人概要	法人が運営する障害福祉サービス等事業（当該GH以外）	事業所名称、所在地、サービス種類 ・ソーシャルインクルー株式会社 ・東京都品川区南大井6-25-3 いちご大森ビル2階 ・障がい者総合支援法における障がい福祉サービス（日中サービス支援型、介護サービス包括型GH）
事業所基本情報	各住居名称、所在地、定員	1. ソーシャルインクルーホーム熊本小島1階（住所：熊本市西区小島8丁目9-6）定員10人 2. ソーシャルインクルーホーム熊本小島2階（住所：熊本市西区小島8丁目9-6）定員10人
	短期入所を実施する住居	住居名 短期入所熊本小島1階（1床） 併設型・ <u>単独型</u> 住居名 短期入所熊本小島2階（1床） 併設型・ <u>単独型</u> 計2床
	主たる対象者	<u>身体障がい者</u> ・ <u>知的障がい者</u> ・ <u>精神障がい者</u> ・難病患者・特定なし
利用者について	利用者の障害支援区分	区分6：7人、区分5：1人、区分4：10人 区分3：2人、区分2：0人、区分1以下：0人
	利用者の年齢	60歳以上：3人、50歳代：7人、40歳代：6人、 30歳代：3人、10歳・20歳代：1人
	利用者の状況	利用者：20人 住居内で日中を過ごす利用者：5人 他の日中活動サービス利用者：15人

項目		評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
			具体的な内容	要望, 助言, 評価
	1	当該日中サービス支援型共同生活援助事業の指定申請に至った経緯、目的等	住まいで困っている障がい者が『0』の社会を創るという理念があります。 障がい者がサポートを受けながら自立して暮らすことができる住まいの場は圧倒的に不足していること、また障がい者向けのグループホームの供給は足りておらず、住み慣れた地域を離れざるを得ない障がい者の方々が数多くいること、その課題を解決すべく申請に至った。	
	2	支援の基本方針	自立を目指せる環境を創る。 自立を目指せる支援を提供する。	○重度の利用者が多いと思われるが、その中で事業所の掲げる自立とはなにか。 →規則正しい生活スタイルを身に着けること、家族への依存度が高い方については、依存から脱却することを目標としている。 ○実際に自立した利用者はいるか。 →令和6年の春頃を目途に1名、県営住宅にて1人暮らしを予定している方がいる。
利用者の主な日中活動	3	日中の支援方法 (日中をGHで過ごす利用者に対してどのような支援を行うのか)	各相談員が作成した目標や計画に沿って、グループホームのサービス管理責任者が利用者に向けた支援方法を計画し、その計画に沿って職員は支援を提供している。 日中に外部の事業所を利用していない方については、買い物や散歩、趣味を兼ねた手作業などを支援している。	○利用者の意向、課題をどのようにして把握しているか。 →利用者が話しやすい職員がコミュニケーションの中で聞き取り、把握している。また、特定の職員を相談の担当にするのではなく、どの職員にも相談できるよう窓口を広げて、把握した内容を職員に共有している。 ○ケア以外の支援について何か取り組んでいることはあるか。 →レクリエーションの開催や、移動販売の実施等を通して地域定着への取り組みを行っている。 ○職員が多く、勤務時間もバラバラだが、日々の情報共有はどのように行っているか。 →毎日の朝礼でミーティングを行っている。また、朝礼に参加できない夜勤職員等については、申し送りのノートを活用することで情報を共有している。
	4	利用者の意向に合わせて適切な日中活動サービス等が利用できるよう、相談支援事業者や他の障害福祉サービス事業者との連携に努めているか	(主な日中活動サービス等の利用先) 利用者やご家族の意向に合わせて、生活介護や就労支援などの事業者と連携を図る。	○モニタリング時以外においても、相談支援事業所と連携を取っているか。 →利用者やご家族から相談があった場合は、その都度相談支援員と連絡を取り合っている。 ○相談支援事業所や他の障害福祉サービス事業者との連携に課題はあるか。 →感染症の蔓延時等の緊急時は、相談支援員との連携が難しくなるため、今後対策を検討したい。

項目		評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
			具体的な内容	要望, 助言, 評価
運地 営域 に 開 か れ た	5	地域との交流や実習生・ボランティアの受け入れを行っているか	(地域住民との交流の機会を確保する工夫等について、1つ以上記載してください) 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの流行時期でなければ、地域の催し物や活動に積極的に参加する。 現状では通院や買い物同行時などに近隣住民との挨拶を行ったり、週に1回の移動販売時に、販売員の方とお話したり、自分で購入する物を選択する等を行っている。	○地域によっては障がい理解が中々得られない場合もあるが、近隣住民との関係はいいが。 →トラブルもなく概ね良好。 ○近隣の入所施設主催で催しものを行っている。事業所間の連携も兼ねて、そこへ参加することで地域への定着が深まると思うので検討してほしい。
運 営 ・ 支 援 に つ い て	6	障がい福祉関連事業における経験がない従業員に対する対応	(外部または事業所内研修の受講計画(年間計画)や、資格取得への取り組みについて具体的に記載してください) 虐待防止、食中毒・感染症、避難訓練、緊急対応、障がい特性について、事業所内研修を行っている。 社内で強度行動障がいに係る研修やサービス管理責任者研修等の資格取得制度を設けている。	○研修はどのように行っているか。 →新人研修の際ビデオ研修を行い、その後OJTにて経験を積んで頂く。 ○マニュアル等はあるか。 →利用者への言葉遣い等を定めたホームルールを共有している。
	7	従業員の確保策(夜間も含めた人材の確保)・離職防止のための取り組み	未経験者は負担が大きくなるよう経験者と業務にあたる。 また、職員の不満や提案等を聞く機会を定期的に設けている。	○経験者との業務はどの程度の期間か。 →基本的には1か月だが、人によって習熟度等が異なる為、慣れるまでは2人体制で業務にあたるよう配置している。 ○職員の募集方法、実際に応募してくる方々の年齢層を知りたい。 →会社説明会を行い職員を募集している。年齢層は家庭の都合等から50~60歳代が多い。 ○職員の不満、提案などを聞く機会を設けているとあるが、どのような方法か。 →管理者による面談や本社で行っている「ハラスメントホットライン(他社委託)」を活用し、話辛いことでも話せるような環境づくりを行っている。
	8	利用者の重度化・高齢化に対応するための従業員の質の確保ための取り組み	利用者の小さな変化にも気づくよう、報告・連絡・相談を徹底することを指導している。 朝夕の申し送りや連絡ノートの活用、ケア会議の実施を行っている。リフト浴の使い方の研修も行っている。採用では介護資格保持者を積極的に採用している。	

項目		評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
			具体的な内容	要望, 助言, 評価
運営・支援について	9	利用者の健康管理方法	毎日、決まった時間に血圧・体温測定を行う等、生活リズムを崩さないように支援する。 変化があったとき、異変の訴えがあったときは、主治医や協力医療機関、訪問看護事業所へ相談する。	
	10	モニタリングの実施方法 (他法人が運営する指定計画相談支援に依頼する等)	セルフプランの利用者はいないため、他法人の相談支援専門員が定期的に行う。	○モニタリングはどのように実施しているか。 →利用者の希望に応じて、共有スペースや居室にて面談を行っている。
	11	その他運営の特色や工夫等	(設備面での障がい特性等への配慮) バリアフリー 2階建てのためエレベーター設置 浴室には昇降リフトを設置 (運営面での特色等) 精神障がい、知的障がい、身体障がい、難病、すべての障がいに対応している。	○設備面で課題としていることはあるか。 →消防の関係上、窓にストッパーの設置ができず、交通量の多い道路にも面している為、利用者の脱出対策を考える必要がある。 ○身寄りのない利用者への支援として工夫していることはあるか。 →生活保護世帯について自治体の保護課と連携すること、後見人を立てることで利用者を1人にしないことを心がけている。

項目		評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
			具体的な内容	要望, 助言, 評価
その他	12	災害等発生時の対応方法	水害に対しては避難確保計画、火災に対しては消防計画で備え、年2回の避難訓練を行っている。消防訓練は管轄消防署に届け出て行っている。また、飲料水や非常食等を備蓄している。	
	13	感染症発生時の対応方法	事業所内で研修を行っている。発生時は感染症対策のマニュアルに沿って対応しており、家族や相談員、日中活動先等の関係各所へ連絡、報告し、対応している。	
	14	地域協議会からの要望, 助言への対応 (2回目以降)	(要望・助言の内容及びその対応)	○何か要望はあるか。 →各グループホームの待機者数等が分かるアプリが欲しい。

報告・評価シート

【報告日 2023 年 12 月 21 日】

【評価日 2024 年 1 月 10 日】

事業所名 障害者グループホーム ファミリン

法人概要	法人が運営する障害福祉サービス等事業（当該GH以外）	事業所名称、所在地、サービス種類 ・就労継続支援B型「トイロハンドワークス」 ・訪問介護ステーション「ファミリン」 ・短期入所「ファミリン」
事業所 基本情報	各住居名称、所在地、定員	1. 障害者グループホーム ファミリン（住所：熊本市東区健軍3-48-15）定員8人 2. 3.
	短期入所を実施する住居	住居名 障害者グループホーム ファミリン （1 床） <u>併設型・単独型</u> 計 1 床
	主たる対象者	<u>身体障がい者</u> ・知的障がい者・精神障がい者・ <u>難病患者</u> ・特定なし
利用者について	利用者の障害支援区分	区分6：7人、区分5：1人、区分4： 人 区分3： 人、区分2： 人、区分1以下： 人
	利用者の年齢	60歳以上： 人、50歳代：1人、40歳代： 人、 30歳代：2人、10歳・20歳代：5人
	利用者の状況	利用者： 8人 住居内で日中を過ごす利用者： 3人 他の日中活動サービス利用者： 5人

項目		評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
			具体的な内容	要望, 助言, 評価
	1	当該日中サービス支援型共同生活援助事業の指定申請に至った経緯、目的等	就労継続支援B型を運営しながら、多くの重症心身障がい者の家族との関係が深くなり、親亡き後の住まいの不安をよく耳にしていたため、非常に需要がある事業だと確信したことから設立に至った。 医療的なケアが必要な利用者の住まいが、現状施設か在宅の2択しかない。どんなに重度でも地域に開かれた場所で暮らしていけることを目標としている。	○医療的ケアが必要な方の自分らしい暮らし方の選択肢が広がっていく取り組みをしている。
	2	支援の基本方針	看護師を24時間配置し、医療ケアを受けられるようにすることで、重い障がいがあっても、地域でその人らしさを大切に、かつ安心安全に暮らせる住まいを目指す。 現在、人工呼吸器が必要な利用者が4名おり、それに伴う医療的ケアを24時間受けられる体制を整えている。	○気管切開をした方は何名いるか、また、喀痰吸引に際し、工夫していることはあるか。 →人工呼吸器が必要な4名のうち、気管切開をした人は3名。また、吸引については各部屋にブザーとモニターを設置しているが、ご自身で意思表示が難しい方もいるので、看護師がフロアを巡回して人工呼吸器の音で異常がないか確認をしている。
利用者の主な日中活動	3	日中の支援方法 (日中をGHで過ごす利用者に対してどのような支援を行うのか)	主に生活をしていく上で必要な介助を中心に行うが、支援の程度によっては、医師の指示のもと、必要な医療ケアを提供する。GHの看護師は殆ど医療ケアに追われていることが多い。	○医療的ケアが必要な方以外の方について、支援時に工夫していることはあるか。 →職員側から過度に干渉するのではなく、本人の自主性を尊重している。本人の自主性(意向)については、日常のコミュニケーションを重視して把握している。 ○医療的ケアが必要になると、体調の安定が主となりがちであるが、生活の中での楽しみが見つけられるよう工夫をお願いしたい。
	4	利用者の意向に合わせて適切な日中活動サービス等が利用できるよう、相談支援事業者や他の障害福祉サービス事業者との連携に努めているか	(主な日中活動サービス等の利用先) それぞれ、生活介護に通所しているが、夜間の様子、通所中の身体的精神的状況の情報共有を欠かさず行っている。 通所においては、随時評価を行い、ライフスタイルに合っているか、体調変化に応じて頻度が適切かを観察、報告している。	○通所について随時評価とあるが、どの程度の頻度で行っているか。 →課題が見つかった場合、すぐに行っている。 ○モニタリング時以外においても、相談支援事業所と密に連携を取っていただくとより良いと思う。

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
運地 営域 に 開 か れ た	5 地域との交流や実習生・ボランティアの受け入れを行っているか	(地域住民との交流の機会を確保する工夫等について、1つ以上記載してください) 自治会に加入し、広報(看板など)の協力をしている。 訪問にきている訪問看護ステーションについても、実習生に同行してもらい、事業所や利用者の説明を行うなどの受け入れも積極的に行っている。 ボランティアに関しては、来年度は外出を手伝ってくれるボランティアを募る予定である。	○自治会への加入とあるが、具体的にどのような活動を行っているか。 →自治会へ参加しているが、地域での障がい理解が進んでいないこともあり積極的には参加できていない。 ○(上記に対し)近隣商店街のイベント等に参加していただくことから始めると良いかもしれない。 ○今後も事業を続け、利用者が住み続けることで地域に定着し、認知度が上がると思う。 ○ボランティアの募集について、ターゲットにしているのはどういった層か。 →学生を中心に募集している。熊本学園大学に募集している旨を伝え、周知を行う等している。ただし、実際に応募が多いのは高齢者。
運 営 ・ 支 援 に つ い て	6 障がい福祉関連事業における経験がない従業者に対する対応	(外部または事業所内研修の受講計画(年間計画)や、資格取得への取り組みについて具体的に記載してください) スタッフの個々のスキルに合わせて研修を勧めたり、スタッフの学びたいスキルの希望を募り、研修計画を立てている。 特に、腰痛予防のため移乗動作に関する研修を実施する予定。 また、来春看護学校へ入学する予定。	○事業所内での研修はどの程度行っているか。 →日々の業務が多く、全体での研修が難しい為、回数を増やして全職員が受けられるようにしている。支援方法の研修については、訪問看護で理学療法士が来た際に、支援方法を教わっている。また、トラブル発生時にはLINE等で共有を行い、再発防止に努めている。 ○昨年度の評価会において、県主催のアンガーマネジメント研修に参加したい旨をおっしゃっていたが、参加できたか。 →業務多忙の為、参加出来なかった。
	7 従業者の確保策(夜間も含めた人材の確保)・離職防止のための取り組み	子育て世代や若い世代の雇用に向けて、個々の働き方を可能な限り工夫している。定期的に面談し、困っていることや体調、家庭の事情、悩み等を寄り添って聞くようにしている。常に利用者の利益になることを考え、課題に対しアイデアを以て解決できるように発言の機会を多く設けている。 職務特性上、どうしてもベテラン看護師が多く、年齢層も年配者が多くなる傾向にあるため、若い世代の教育に向けた取り組みを検討していく予定である。	○看護師の入れ替わりは多いか。 →看護の理想と現実のギャップに悩むこともあり、若い人は辞めやすい。他の事業所がどのように職員の確保をしているか知りたいので、事業所間で情報共有ができるコミュニティを設けて欲しい。 ○スタッフのメンタルケアについて、どのようなことを行っているか。 →代表である自分が日頃から目を配り、必要に応じて相談に乗ったり会議を開催している。
8 利用者の重度化・高齢化に対応するための従業者の質の確保ための取り組み	看護師に関しては、高度医療の中でも在宅での取り扱い方を中心に勉強し、指導に努めている。特に疾患に伴うリスクの共有を看護・介護間で行うことで、事故発生を未然に防ぐようにしている。疾患に伴う機能障がいと、廃用、高齢に伴う機能低下などの評価を欠かさず行い、それに対する介護技術の習得を目指している。GHは生活の場であり、医療的な面だけに特化してしまうのは避けたいと考えており、利用者がこの先長く暮らしていく中で、本人の状況や望んでいる生活をしっかり理解したうえで、支援をしていく必要性を感じている。また、難病に関する知識などの勉強や情報共有にも力を入れている。		

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】	
		具体的な内容	要望, 助言, 評価	
運営・支援について	9	利用者の健康管理方法	障がい程度に合わせて変わるが、最低でも一日一回はバイタルチェックを行い、体調の変化がないか観察している。それぞれの主治医と連携し、メディカルケアステーションなどのツールを利用して密に連絡を取り合い、常に情報共有、相談、指示を仰いでいる。訪問診療の医師が2週間に1回来ているため、連携や相談が取りやすい環境である。	
	10	モニタリングの実施方法 (他法人が運営する指定計画相談支援に依頼する等)	定期的に相談支援との面談やカンファレンスを行い、現在の生活評価やサービスと状態の整合性を評価し、見直しを図っている。	○モニタリングの時にしか相談支援事業所と連携する機会が無い場合、モニタリング以外にも連携する場を設けることが望ましい。
	11	その他運営の特色や工夫等	<p>(設備面での障がい特性等への配慮)</p> <p>車椅子ユーザーや、転倒リスクが高く歩行が困難な利用者しかいないため、施設はバリアフリーにしている。場所の案内はわかりやすく表示し、観察しやすいよう常に見渡せる空間にしている。</p> <p>GHの建物は以前小規模多機能事業所が使用していたため、設備は整っていた。浴室は特殊浴と個浴が可能なように手を加えている。</p> <p>(運営面での特色等)</p> <p>看護師と介護士が多く配置されている為、それぞれの職域を理解し、自分にできること、役割をしっかりと見据えたうえで指示がなくとも自発的に動けるよう、施設としての業務マニュアルを最小限にとどめている。あくまでも、利用者主体の支援、介護ということを念頭に置き、業務に当たっている。</p>	

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
その他	12 災害等発生時の対応方法	災害時、人工呼吸器の方は命にかかわってくるため、バックベッドが機能するか事前に確認し、最低1~2日間は自施設で過ごせるよう備蓄している。非常用電源の準備が整っていないため、早急に準備する予定。火災に対しては年2回の消防避難訓練を徹底して行っている。消防訓練は、GHの出入り口が1か所のみのため、出入り口付近で火災が起こった場合など様々なケースを想定して訓練を行っている。	○台風発生時について、どのような備えをしているか。 →前もって各種器具のバッテリーをチャージしている。発電機を設置したいが、費用面の問題等で設置できていない。
	13 感染症発生時の対応方法	重度化しやすい利用者はバックベッドの利用（入院）を検討し、その他はスタンダードプリコーションにて感染対策を徹底して行う。 消毒液は感染源によって変え、感染経路によって予防法も変えている。 コロナだけでなく、インフルエンザや感染性胃腸炎などそれぞれに対応した予防策を講じて、職員へ周知・指導している。	○感染対策はそれぞれに対応した予防法を取り入れており、徹底されている。
	14 地域協議会からの要望, 助言への対応 (2回目以降)	(要望・助言の内容及びその対応)	○なにか要望はあるか →前回申し出た「成年後見人制度」についてや、その他役に立つ研修等あれば、ご案内いただきたいです。